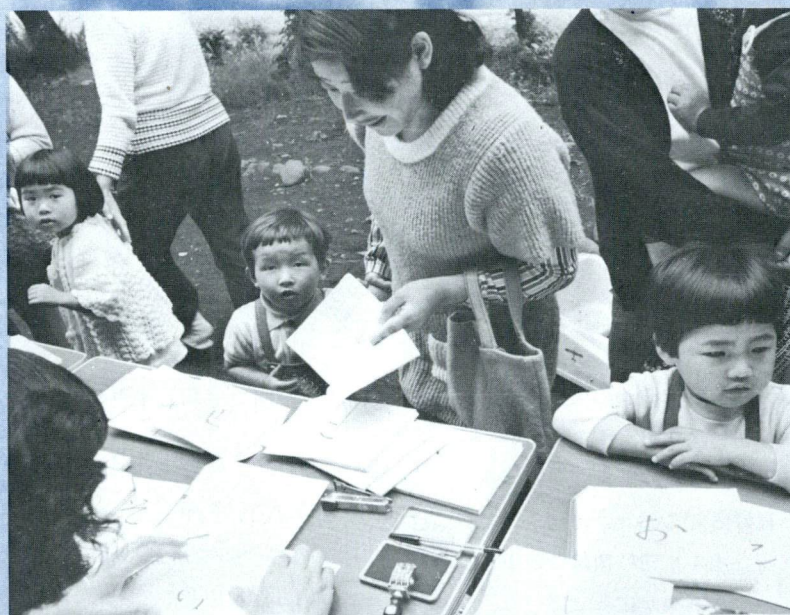


日本では結核による死亡率は減少してきたとはいえ、まだ100万以上の人が結核で苦しんでおり、地球上の多くの地域で結核はなお沢山の生命を蝕んでいる……………

文部省選定

結核との たたかいは 続いている

16ミリ カラー 30分



今日も各地で行われる集団検診

企画 (財)結核予防会
製作 ㈱桜映画社
監修 結核予防会結核研究所
協賛 日本チバガイギー(株)

スタッフ

製作	村山英治	撮影	加藤和三
脚本	渡辺正己		戸田祥一郎
演出	渡辺正己		永井弘道
助監督	藤原道夫	照明	久保賀作
		解説	高島陽

■製作意図

結核は最近とかく忘れられ勝ちであるが、未だ多くの生命を蝕み、その治療には長期を要する病気である。そこでこの映画では、様々な実験結果を踏まえつつ、結核についての正確な知識及び対策について言及する。

対象：成人・青年（社会教育教材）

— みどころ —

結核菌はしぶとい菌である。厚い蠟の被膜につつまれて、ゆっくりと発育し、薬が効くにも長い時間がかかる。そんな菌のしぶとさが、この映画で実によく描かれている。長い菌が顆粒状になり、もう一度長い菌に戻るのを撮影したのは、この映画が初めてではないだろうか。こんな菌に対する生体の闘いで、細胞の演ずる役割を映画の目を通じてリアルに知ることができるのも、この映画のもう一つの圧巻である。 **結核研究所 岩井和郎**

かを検査するのがツベルクリン反応である。体の中に結核菌が入ったことがあると注射した所が赤くはれてくる。

30年程前のストレプトマイシンの発見以来、色々な抗生物質が開発されて、結核の治療は手術中心から、薬剤による治療に変わって来た。しかし、反面薬剤に対する抵抗力を持った耐性菌の問題が生じ、新しい抗生物質の開発が試みられている。

結核について私たちが忘れてならないのは、体の抵抗力を強めて結核を未然に防ぐのが大事だということである。その抵抗力の研究としてリンパ球の研究が行われている。リンパ球が作り出す物質が新し

い大喰細胞に伝えられると、その大喰細胞の結核菌に対する作用が強められるのではないかと

いうことが様々な実験から判明してきている。多形核白血球、大喰細胞、リンパ球など、色々な細胞の働きによって私たちの体は守られている。生命は自らを守る仕組みを持っている。私たちが結核について正確な知識を持って一寸した注意を怠らなければ、この生命を結核から守ることは必ず出来るのである。

■ 内 容

今日も各地で結核の集団検診が行われている。結核が結核菌によって起こる病気であることが分ったのは、90年程前のことである。結核菌は1ミリの200分の1以下という微生物で、互いにかみ合い、縄をなうような具合に伸び変形しても、しぶとい生命力を持って生き続ける。

私たちの体には、外から侵入して来た細胞などをやっつける能力があるが、喰菌作用をする白血球もその1つ、喰べた細菌も消化してしまふのが普通だが、毒力の強い結核菌の場合には、白血球がこわれても結核菌は消化されずに残っている。さらに強い喰菌力を持つ大喰細胞でも、毒力の強い結核菌を次々に喰べ続けるとこわれ、消化されなかった結核菌が殖えて伸び出す。結核菌はこのように肺の組織を破壊して殖え、病巣が広がっていく。

この結核を予防するのがBCGのワクチンである。これを生きたまま接種すると体の中で白血球、大喰細胞などがBCGを消化し、結核菌に対する抵抗力を持つようになる。体の中に結核菌が入ったかどう



— 保健衛生映画シリーズ —

鉤虫—十二指腸虫の生態	90,000
成人病問答	45,000
スポーツの科学	65,000
人間誕生	100,000
初めての赤ちゃん	170,000
案ズルヨリ生ムガ易シ	100,000
うすい血—婦人と貧血—	110,000

頒布価格 ￥ 130,000

株式会社

桜映画社

東京都新宿区西新宿 1-22-1
スタンダードビル TEL (342) 5768

取扱店